

「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／自動運転（システムとサービスの拡張）／社会的受容性の醸成に向けた戦略策定と評価に関する調査／総合的な戦略の策定、Web等の情報発信に関する企画及び実施」

2021年度分 成果報告書

概要版

株式会社電通名鉄コミュニケーションズ
株式会社住商アビーム自動車総合研究所

2022年3月

1. 研究開発の内容及び成果等

(1) 社会的受容性の醸成に関する総合的な戦略を策定

2022年までの長期ビジョンを確認し、2021年度の具体的活動案を策定した。

(2) 自動運転に関する情報発信に関する企画及び実施

(2-1) Webサイト「SIP-café (<https://sip-cafe.media/>)」の企画・運営を行った。また双方向性の確保を目的としたSNS等を企画・運営した。

- SIP-café (<https://sip-cafe.media/>) : 2021年度に記事166本を掲載。
- Facebookページ : 「一緒に考えよう、移動の自由のある未来社会@SIP-adus」と連携

【WEBサイトSIP-caféトップページ】



(2-2) マスメディア向けの周知活動の企画及び実施

● 2021年10月 臨海部における試乗会連携作業

- 課題評価委員向け拠点視察及び試乗会(課題評価委員・推進委員)・メディア試乗会を開催するために、企画を作成。
- 東京都と調整を行い、普段は一般開放されていない東京国際クルーズターミナル駐車場と、湾岸警察署が使用している駐車場を借りる手配を行った。
- マスメディアだけではなく、課題評価委員、推進委員が試乗することになり、調整を行った。
- 視野障害の体験テントを作ることになり、体験提供者である井上眼科に調整を頂いた。

(テントでの説明風景)



(2-3) 自動運転に関する問合せ窓口の設置及び運営

WEBサイトにお問い合わせ窓口を設置。メール問い合わせに対し3営業日以内に返信をする体制を運営した。

(3) 危機管理広報設計業務

- 臨海部実証実験において、万が一事故があった際、主催者としてどのように対応すべきか、マニュアルを作成した。
- ①ニュースリリース案（デフォルトの事故対応レベル2の修正に加えて、レベル1と3そして実験外事故の案を追加）②想定Q案、③メディア対応シートを作成、合わせて納品した。

<株式会社住商アビーム自動車総合研究所 受託分>

第1章 「視野障害について考えるSIP-adusウェビナー」報告

視野障害ウェビナー 全3回概要

- ①「視野障害と自動運転」問題の認知、②有病者の運転と就労、③運転支援技術と各回のテーマを展開。
- 参加登録者数は毎回増加。業界紙・ウェブメディアを中心に取材もあり、二次発信効果もあったと考えられる。

各回の概要

■ 第1回 「視野障害と自動運転の交叉点」(2021.7.8)

- プログラム・登壇者
 - ・ 冒頭挨拶: 清水和夫氏
 - ・ 基調講演①「技術を育てる - iPS細胞と自動運転の共通点」: 高橋政代氏 (神戸アイセンター病院研究センター長)
 - ・ 啓発動画「緑内障運転絵巻」(国際交通安全学会制作)
 - ・ 基調講演②「症例紹介『運転外来の現場より』」: 國松志保氏 (西葛西・井上眼科病院 副院長)
 - ・ 代表質問・視聴者Q&A: 高橋政代氏、國松志保氏、伊藤誠氏 (筑波大学教授)、岩貞るみこ氏
- 参加者数: 登録**335名**(一部運営側を含む)
- メディア掲載: 交通毎日新聞、Merkmal

■ 第2回 「運転免許と視野障害～有病者の運転と就労を考える」(2021.9.2)

- プログラム・登壇者
 - ・ 冒頭挨拶: 清水和夫氏
 - ・ 基調講演「警察庁の免許制度と視野画像学会の取組み」: 岩瀬愛子氏 (たじみ岩瀬眼科院長、警察庁「高齢運転者交通事故防止対策に関する調査研究」分科会構成員)
 - ・ 「視野障害ドライバーに対する企業の対応例」: 岩貞るみこ氏
 - ・ 代表質問・視聴者Q&A: 高橋政代氏、國松志保氏、岩瀬愛子氏、岩貞るみこ氏
- 参加者数: 登録**391名**(一部運営側を含む)
- メディア掲載: Response.、グーネットマガジン等

■ 第3回 「視野障害と運転支援システム ～技術の現在地と未来～」(2022.1.11)

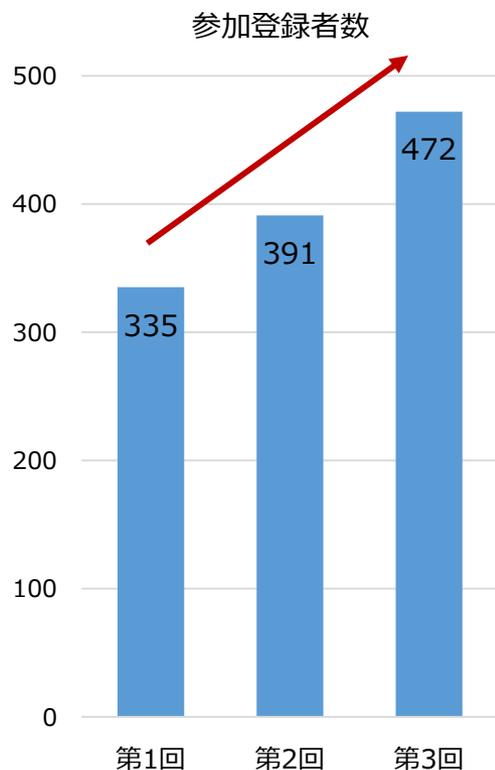
- プログラム・登壇者
 - ・ 冒頭挨拶: 清水和夫氏
 - ・ 基調講演①「高精度大型DS(ドライビング・シミュレータ)を用いた視野障害を有するドライバーの視認行動のモデル化と運転支援システムによる事故低減効果シミュレーション」: 名古屋大学未来社会創造機構 特任教授 青木宏文氏
 - ・ 基調講演②「先進運転支援システムの最新開発状況と今後の展開」: 株式会社本田技術研究所 先進技術研究所 エグゼクティブチーフエンジニア 杉本洋一氏
 - ・ パネルディスカッション・視聴者Q&A: 青木宏文氏、杉本洋一氏、小出直史氏 (大阪大学 特任准教授)、清水和夫氏
- 参加者数: 登録**472名**(一部運営側を含む)、実視聴356名
- メディア取材・掲載: 日刊自動車新聞(WEBメディア「リガーレ」有料記事)、医療ジャーナリスト(掲載未確認)

視野障害ウェビナー アンケート分析(1)

- 参加人数は増加を続けた。参加者の属性は、一貫して「40-60代」「男性」が多い傾向が見られた。

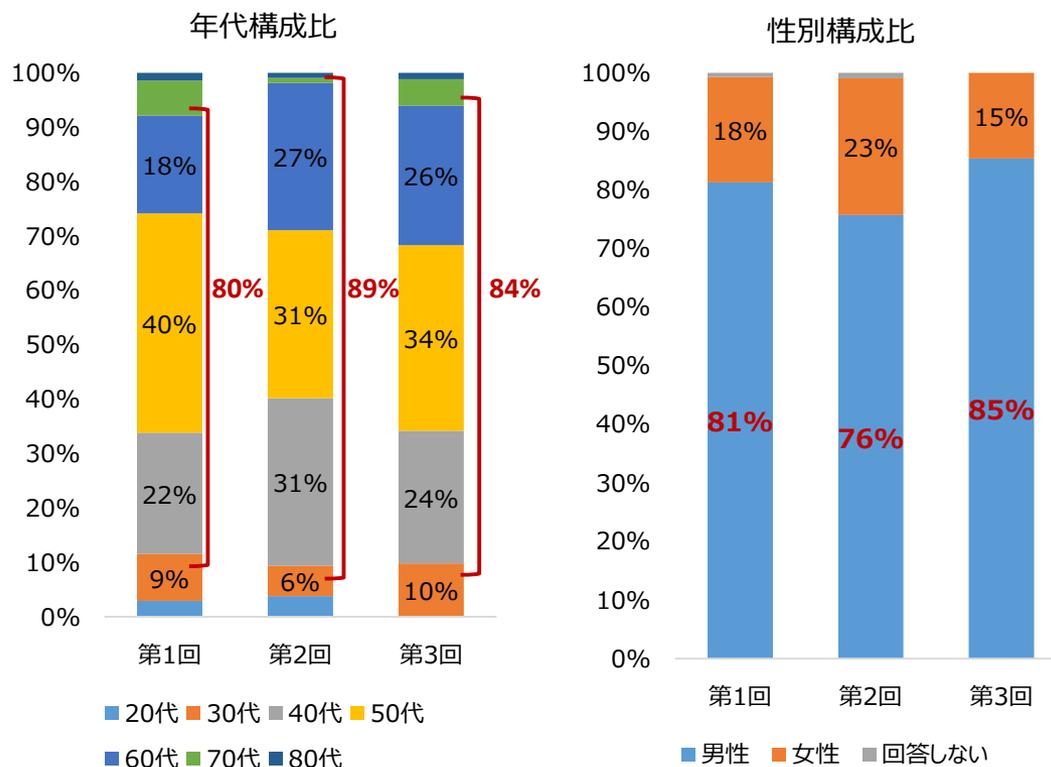
参加人数

- 広報活動の拡充とリピート参加により増加。



参加者属性

- 一貫して、年代は40-60代が80%台、性別は男性が70-80%台を占めた。

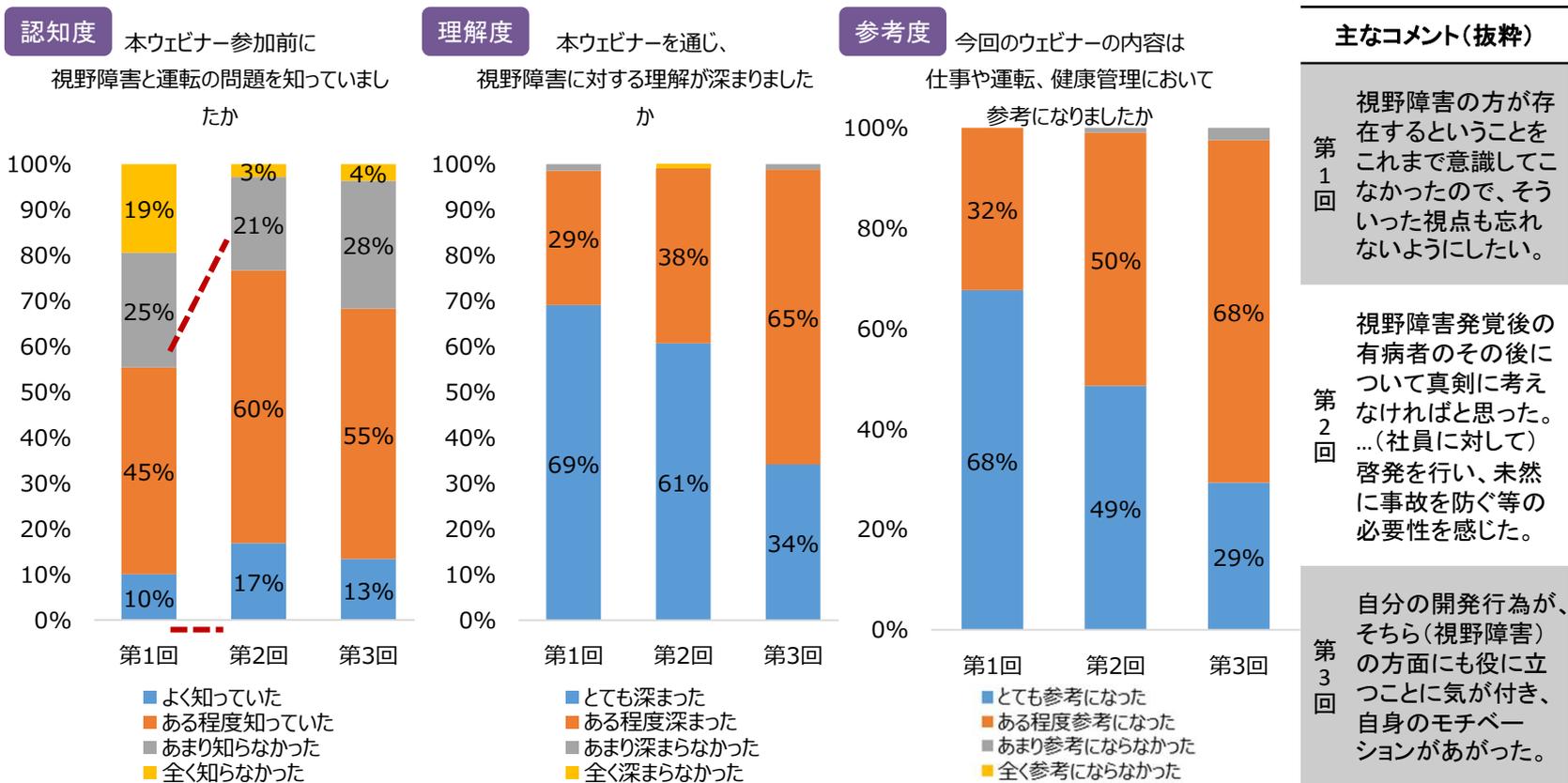


視野障害ウェビナー アンケート分析(2)

- 医療中心のテーマだった第1回・第2回を比較すると、「視野障害と自動運転」問題の認知度が向上した。

参加者の反応

- 第1回・第2回は医療中心のテーマで参加者の重なりも大きかったと考えられる。このなかで「視野障害と自動運転」問題の認知度が上昇した。
- 理解度や参考度については各回で内容が異なるため比較は困難だが、認知度の上昇に伴い“新鮮さ”が低減していった可能性は考えられる。



SIP café on Tubeを通じた動画による広報活動

■ I. 企画趣旨

- SIP自動運転の各種取組(仮想空間でのシミュレーション、交通環境情報の活用促進等)やその他の最新動向について、業界関係者や一般市民の理解を促進することを目的として、各種動画の制作・発信を行った。
- なお、解説動画の作成にあたっては、自動運転を取り巻く法制度整備や技術開発、実証実験、実用化、将来像の進捗や中身について、過信・不信・誤認等を抱かせないように留意しつつ、SIP自動運転の各種取組の目的・成果等を分かりやすく解説・PRするよう留意した。

■ II. 実施内容

- 2021年度に計72本の動画を作成し、YouTubeチャンネル「SIP café on Tube」に掲載した。内訳は下表の通り。

#	カテゴリ	本数
1	視野障害と運転の問題に関する動画(視野障害ウェビナー等)	13
2	地域交通に関する動画(市民ダイアログ、地域自動運転サミット等)	12
3	東京臨海部実証実験に関する動画	11
4	試乗レポート、SIP合同試乗会等	11
5	「自動運転見聞録」(各地域のサービス・実証実験等の紹介)	11
6	技術セミナー	10
7	安心・安全に関する「令和の緊急提言」	2
8	DIVP紹介動画	1
9	法整備セミナー	1

本報告書は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が管理法人を務め、内閣府が実施した「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／自動運転（システムとサービスの拡張）」(NEDO管理番号：JPNP18012)の成果をまとめたものです。